



TITLE:

世里没里に就いての疑

AUTHOR(S):

小川, 裕人

---

CITATION:

小川, 裕人. 世里没里に就いての疑. 東洋史研究 1937, 2(3): 261-261

ISSUE DATE:

1937-02-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/138722>

RIGHT:

# 世里沒里に就いての疑

小 川 裕 人

前論考中(東洋史研究第一卷、四三九頁、一三—一四行)「その前年には同紇の侵略も益々深くなり」の一句は省く。然し迭刺部が潢水上流域に居た部族を主要分子としたといふ考には變りはない(本號四二—四三頁參照)。こゝに一言したいのは阿保機の出世地に就いてである。遼室の姓なる世里(耶律)がその住地名なることは契丹國志(卷二二)に至阿保機變家爲國之後始以王族號爲橫帳仍以所居之地名曰世里著姓とあるによつても推せられる。然るに遼史地理志祖州の條には本右八部(迭刺部の別名ならん)世沒里地とある。祖州は遼室祖宗の住地として傳へられ、伯父釋魯の據城もその近くに在り阿保機の陵や紀功碑もその附近に建てられたことより察して、阿保機の初の據地がこの地方であつたと見られる。されば世沒里は世里沒里の略ではなからうか。祖州の西方阿保機の陵や紀功碑のある地方には液山とか液泉とかいふ地名がある。液は蒙古語では *seile*, *silun* ダフル語では *silte* である。世里はこれ等と同系統の語の對音ではなからうか。遼史太祖紀の阿保機の出生地迭刺部霞瀨益石烈耶律彌里は地理志の右八部世沒里地と同じであらう。

若し右の想像が許されるとすれば阿保機のの出世地は西樓の始めて置かれた祖州(阿保機の末年頃より後は上京今の林東縣附近が主として西樓と言はれたことは支那側の史料によつて推せられる)の西方の地でその地名の世里が阿保機の氏族名となつたのではなからうか。斯くの如き氏族名が契丹人一般の姓となつたのは契丹同源(灰牛白馬)傳説の影響とも見られる。この傳説が太宗時代に採用されたのは遼室の祖を契丹全體の祖としたものでこれは大賀一源の傳説から世里一源の傳説への變改であらう。契丹人は盡く同一始祖から分れたからその姓も同一でなければならぬと考へられ、外戚なる蕭姓の他には異姓を許されなかつたのではなからうか。世里は右の如く解されるが契丹國志によれば世里は上京東二百里の地とあり、滿洲歷史地理(第二卷)によれば祖州は上京の西南方に在りといふ。契丹國志の方向及び里數には傳聞の誤があるのではなからうか。しばらく疑問を附して後考を待つ。